

今の時期、ちょっとした草が生えている広場なら、どこでもバッタを採集できます。まだ幼虫が多いので、捕虫網などなくても、手でも簡単に捕まえられるのです。くさむらを棒や足先で少し揺らすと、驚いたバッタがピョンととびます。幼虫はまが翅がないので、「飛ぶ」のではなく「跳ぶ」のです。その着地点をよく見て、下からそっとすくい上げるようにつかむと、ほぼ 100%成功します。

先日、3年生の子どもたちと、大学構内の「新イタドリ広場」に虫探しに行きました。テニスコート裏の、もともとは温室のあった場所で、今は草っぱらになっていて、虫さがしには最高の環境なのです。あいにく「草刈り」をしていて入れなかったのですが、その周辺の大学体育館脇などにも、虫はたくさんいました。

20分ほどの活動で、どうやら一人一匹は「確保」できたようです。持ち帰った昆虫は、ポリ袋、プラカップ、それに R-1 (乳酸菌飲料) の容器に入れて観察していました。翌日、「先生、変な茶色い虫が入ってます」と見せに来た子がいました。それは「虫」ではなく脱皮した抜け殻でした。こんな狭い容器でも脱皮するのかと驚きましたが、あしの形までしっかり残っていて、子どもたちも興味津々の様子でした。

